

主要産地における平成30年産水稻の生育状況等について 第5報 (7月5日現在)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部(平成30年7月6日)

道府県	生育状況等		技術・防除・気象等関連公表資料(自治体、気象台等公表資料の抜粋)
	区分	育苗・田植進行状況・生育状況等(自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等	
北海道		(全道) 6月中旬の低温の影響により、分けつが抑制され茎数は少ないが、生育は、平年並に推移している。(北海道農政部 7月5日付)	【向こう1か月の天候の見通し 6月23日~7月22日】 北海道地方の向こう1か月の平均気温は高く、降水量・日照時間はほぼ平年並の見込み。 (気象庁札幌管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月~9月】 北海道地方の、向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、平年並が多い見込み。 (気象庁札幌管区気象台)
	(生育)	(空知) 6月中旬の低温と日照不足により生育は緩やかとなったが、平年並である。(空知総合振興局 7月5日付) (石狩) 低温、日照不足により生育は停滞している。(石狩総合振興局 7月5日付) (後志) 遅速日数+遅2(後志総合振興局 7月5日付) (釧路) 生育はやや遅い。(釧路総合振興局 7月5日付) (日高) 低温・日照不足により生育は遅れ、分けつは緩慢で茎数は少ない。(日高総合振興局 7月5日付) (渡島) 6月3~4半旬の低温・日照不足の影響が非常に大きく、生育は停滞し、分けつの発生も抑えられている。(渡島総合振興局 7月5日付) (檜山) 生育は概ね平年並。(檜山振興局 7月5日付) (上川) 生育は、平年並に推移している。(上川総合振興局 7月5日付) (留萌) 生育は平年並であるが、低温、寡照の影響によりやや停滞している。(留萌振興局 7月5日付) (オホーツク) 生育度は平年並みだが、低温・寡照の影響で分けつが抑制されている。(オホーツク総合振興局 7月5日付)	
青森	(生育)	稲の県生育観測ほ(合計21か所)における6月29日現在の調査結果では、平年と比較して「つがるロマン」は草丈が短く、茎数が少なく、葉数がやや少なかった。「まっしぐら」は草丈が短く、茎数はほぼ平年並、葉数がやや少なかった。葉数からみた生育進度は、「つがるロマン」、「まっしぐら」が1~2日程度遅れている。今後、気温が平年並に推移した場合、県内の幼穂形成期は「つがるロマン」が7月13~17日頃、「まっしぐら」が7月10~21日頃、出穂期は「つがるロマン」が8月5~10日頃、「まっしぐら」が8月5~16日頃と予想される。(青森県「攻めの農林水産業」推進本部 7月4日付)	【向こう1か月の天候の見通し 6月23日~7月22日】 東北地方の向こう1か月の気温は高く、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月~9月】 東北地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量は、平年並が多い見込み。 (気象庁仙台管区気象台)
岩手	(生育)	県全体の生育は、草丈35.8cmで平年よりやや短く(平年差-2.9cm)、茎数は401本/m ² で平年よりやや少ない(平年比94%) 葉数は8.1葉で平年並(平年差-0.2葉)であり、葉色も平年並(平年差-1.2ポイント) 6月第2半旬~第4半旬までの低温少照のため、移植時期や栽培方法による圃場ごとの生育差が大きい。(岩手県 6月27日付)	同上
宮城	(生育)	県全体の水稻の生育は、草丈が50.3cm(平年比101%)、1m ² 当たり茎数が565本(平年比101%)、葉色はGM値※が42.4(平年差+1.0)となっている。 間もなく幼う穂すい形成期※(県平均の平年は7月8日)を迎えることから、生育ステージの把握や生育量・葉色に応じた適正な肥培管理を実施するよう指導している。(宮城県 7月3日付)	同上
秋田	(生育)	(鹿角) 6月25日の定点調査の結果、管内の生育状況は、草丈が34.4cm(平年比92%)、茎数が470本/m ² (平年比96%)、葉数が9.6葉(平年比-0.2葉)、葉色(SPAD値)は43.6(平年比96%)。6月10~17日頃にかけての低温日照不足により、生育が停滞したため、全体的に平年よりやや遅れている。(6月29日付) (山本) 6月25日現在の水稻定点調査ほ場(管内9地点)における生育状況は、草丈31.7cm(平年比87%)、茎数357本/m ² (同比93%)、葉数8.7(同差+0.1葉)、葉色44.2(同比101%) (6月29日付) (秋田) 6月11日現在の水稻の生育状況は、草丈26.0cm(平年比101%)、茎数141本/m ² (同比82%)、葉数6.3葉(同差-0.1葉)。大雨等の影響により生育はやや遅れているが、分けつの発生が始まっている(6月18日付) (由利) 6月25日の水稻定点調査結果(3品種・移植8か所平均)によると、草丈は33.9cmで平年より短く(平年比88%)、m ² あたり茎数は423本で平年より少なく(平年比88%)、葉数は8.2葉と平年より少なく(平年差-0.5葉) (6月29日付) (仙北) 6月29日現在の管内のあきたこまちの生育状況は、草丈が34.0cm(平年比94%)、茎数は409本/m ² (平年比101%)、葉数は8.2葉(平年差-0.2葉)、葉緑素計値は44.8(平年差+1.0ポイント) (6月29日付) (平鹿) 6月10日現在の水稻定点調査(あきたこまち11か所)では、草丈25.5cm(平年比111%)、茎数134本/m ² (同比121%)、葉数5.8葉(同差+0.3葉) (6月15日付) (北秋田) 6月25日現在の生育は、草丈が36.1cm(平年比92%)、茎数が480本/m ² (平年比94%)、葉数が8.6枚(平年差-0.3枚)、葉色値が44.5(平年比100%) 依然、生育にほ場間差が見られる(6月29日付)(秋田県)	同上
山形	(生育)	(酒田飽海) 6月29日現在の生育状況 ○はえぬぎ ⇒ 草丈「やや短い」、茎数「やや多い」、葉数「やや少ない」、葉色「やや濃い」 ○ひとめぼれ ⇒ 草丈「やや短い」、茎数「やや少ない」、葉数「平年並」、葉色「平年並」 ○つがね ⇒ 草丈「やや短い」、茎数「平年並」、葉数「平年並」、葉色は「濃い」 (酒田農業技術普及課 7月3日付) (東南・西置賜) おおむね茎数は確保されていますが、土壌還元(ワキ)の影響等により、生育不足の圃場が見られるなど、例年になく生育のバラつきが大きい。出穂期は「平年並み~2日早い」予想。 (やまがた攻めの米づくり日本一運動置賜地域本部実践班 7月4日付) (西村山) 葉数の進みは平年並み~やや遅い。草丈はやや短い、茎数は圃場間のバラつきが大きい。葉色は平年並み。 (やまがた攻めの米づくり日本一運動 6月29日付) (鶴岡田川) 6月29日の生育調査では、茎数、葉色ともに平年並。早生品種「はなの舞」では、平年より4日遅く、「あきたこまち」「どまんなか」では、出穂期は7月27~28日で、平年より2、3日遅い予想。 (庄内総合支庁農業技術普及課 7月4日付)	同上
福島	(生育)	6月5日現在の農業総合センターの生育調査では、本部(郡山)と会津地域研究所(会津坂下)の茎数、主稈葉数が平年を下回っています。主稈葉数からみた生育は、本部(郡山)と会津地域研究所(会津坂下)で平年より3日遅れ、浜地域研究所(相馬)では平年より2日早まっている(福島県農林水産部 6月8日付)	同上

表1 平成30年産水稻の生育状況(管内) (単位: 10aあたり)

調査日	生育状況				生育進捗			
	草丈	茎数	葉数	葉色	生育進捗	生育進捗	生育進捗	生育進捗
6月25日	34.4	470	9.6	43.6	92%	96%	96%	96%
6月29日	35.8	401	8.1	42.4	94%	94%	94%	94%

表2 県全体の生育状況(単位: 10aあたり)

調査日	生育状況				生育進捗			
	草丈	茎数	葉数	葉色	生育進捗	生育進捗	生育進捗	生育進捗
6月25日	50.3	565	8.1	42.4	101%	101%	101%	101%
6月29日	50.3	565	8.1	42.4	101%	101%	101%	101%

表3 水稻の生育状況(単位: 10aあたり)

調査日	生育状況				生育進捗			
	草丈	茎数	葉数	葉色	生育進捗	生育進捗	生育進捗	生育進捗
6月5日	35.8	401	8.1	42.4	94%	94%	94%	94%
6月8日	35.8	401	8.1	42.4	94%	94%	94%	94%

生育状況等																																																
茨城	<p>(水戸市 5月1日移植 6月29日現在) 主稈葉数の展開からみた生育は「あきたこまち」1日程度遅い。「コシヒカリ」平年並。「ふくまる」2日程度遅い。 (水戸市 5月10日移植 6月29日現在) 主稈葉数の展開からみた生育は「コシヒカリ」8日程度遅い。 (茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月4日付)</p> <p>(龍ヶ崎市 4月26日移植 6月26日現在) 主稈葉数の展開からみた生育は、「あきたこまち」1日遅い。「コシヒカリ」2日遅い。「ふくまる」1日早い。 (龍ヶ崎市 5月7日移植 6月26日現在) 主稈葉数の展開からみた生育は、「あきたこまち」8日遅い。「コシヒカリ」1日早い。 (茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月4日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 6月23日～7月22日】 関東甲信地方の向こう1か月の気温は高い見込み。 降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【高温に関する異常天候早期警戒情報】 関東甲信地方では、7月10日頃からの1週間は、 気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれる。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>・ヒメトビウンカ(縞葉枯病)の発生が多い予想。 (農林水産省 6月13日付)</p>																																														
栃木	<p>(早植栽培6月22日調査結果 コシヒカリ) ・草丈は長く(平年比105%)、茎数はやや少なく(97%)、葉数は平年並、葉色は0.3濃い。 地域によりバラツキがあるが、葉数から判断して生育は平年並と考えられる。 生育診断値(葉色×茎数)は平年比89%と小さい。生育は平年に比べ2～3日進んでいる。 (栃木県農政部長官技術課 6月27日付)</p>	同上																																														
千葉	<p>・移植後の気温は平年と比較して高い傾向が続く、4月20日に移植した「ふさおとめ」、および「ふさこがね」は平年と比較してやや早く幼穂形成期を迎えた。また、4月20日に移植した「コシヒカリ」も6月20日頃から幼穂形成期を迎え、追肥時期となっているが、6月第3半旬以降の低温によって地域間のバラつきが大きくなっている。また、5月1日に移植した「コシヒカリ」は平年並みの6月30日頃から幼穂形成期となる見込み。「コシヒカリ」は全体的に、草丈はやや長く、葉色は並み～やや濃く推移しているほか、「葉いもち病」の発生が見られる地域もある。(千葉県 6月27日付)</p>	<p>表1 移植後の生育状況(6月26日現在)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品種</th> <th rowspan="2">移植時期</th> <th colspan="4">生育状況(%)</th> </tr> <tr> <th>草丈</th> <th>茎数</th> <th>葉数</th> <th>葉色</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ふさおとめ</td> <td>4月20日</td> <td>幼穂</td> <td>並</td> <td>並</td> <td>やや濃</td> </tr> <tr> <td>ふさこがね</td> <td>4月20日</td> <td>早</td> <td>並</td> <td>並</td> <td>やや濃</td> </tr> <tr> <td>コシヒカリ</td> <td>4月20日</td> <td>幼穂</td> <td>幼穂</td> <td>並</td> <td>並</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5月1日</td> <td>並</td> <td>幼穂</td> <td>並</td> <td>やや濃</td> </tr> <tr> <td>ふさおとめ</td> <td>4月20日</td> <td>並</td> <td>幼穂</td> <td>並</td> <td>やや濃</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5月10日</td> <td>並</td> <td>幼穂</td> <td>並</td> <td>並</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 平年比は過去10年(2008～2017年)の平均値を100%とし、(ふさおとめ)は過去5年(2010～2017年)の平均値を用いた。</p>	品種	移植時期	生育状況(%)				草丈	茎数	葉数	葉色	ふさおとめ	4月20日	幼穂	並	並	やや濃	ふさこがね	4月20日	早	並	並	やや濃	コシヒカリ	4月20日	幼穂	幼穂	並	並		5月1日	並	幼穂	並	やや濃	ふさおとめ	4月20日	並	幼穂	並	やや濃		5月10日	並	幼穂	並	並
品種	移植時期	生育状況(%)																																														
		草丈	茎数	葉数	葉色																																											
ふさおとめ	4月20日	幼穂	並	並	やや濃																																											
ふさこがね	4月20日	早	並	並	やや濃																																											
コシヒカリ	4月20日	幼穂	幼穂	並	並																																											
	5月1日	並	幼穂	並	やや濃																																											
ふさおとめ	4月20日	並	幼穂	並	やや濃																																											
	5月10日	並	幼穂	並	並																																											
新潟	<p>【6月28日現在の生育】 ・コシヒカリは、指標値(生育のめやす)に比べ、草丈は「短」、茎数は「やや多」、葉数の進み及び葉色は「いずれも「並」」の状況。 ・長岡市に設置した調査ほ場では、つきあかり、ゆきんず舞、こしいぶきの茎数は、指標値に比べ、それぞれ「少」、「並」、「やや多」の状況。 (新潟県 6月29日付)</p> <p>(岩船) 6月中旬の低温の影響で、草丈の伸長、葉数の進みが緩やかになっている。出穂期は早生・中生ともに平年並の見込み。 (村上農業普及指導センター 6月28日現在) (魚沼) 指標値に比べ、草丈はやや短く、茎数・葉数ともやや少なく、葉色は濃い。移植時期の遅いほ場は、茎数が少なく、葉色が濃い傾向(魚沼農業改良普及センター 6月28日付) (佐渡) (コシヒカリ) 茎数・葉色は目標値並、草丈はやや短く、葉数は遅れ。地域差が大きい。 (佐渡農業普及指導センター 6月20日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 6月23日～7月22日】 北陸地方の向こう1か月の気温は高い見込み。 降水量と日照時間はほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【高温に関する異常天候早期警戒情報】 北陸地方では、7月10日頃からの1週間は、 気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれる。 (気象庁新潟地方気象台)</p>																																														
富山	<p>(コシヒカリ) 平年に比べ、草丈、葉数および葉色は並み、茎数はやや多くなっている。 葉数を揃えて比較すると、草丈、葉色は平年並みで、茎数はやや多くなっている。 生育量(草丈×m²×茎数×葉色÷1000)の平均値は、132と平年並みとなっているが、103から179とばらつきが大きくなっている。今後、平年並みの気温で推移した場合、幼穂形成期、出穂期は、それぞれ平年並みの7月12日頃、8月3日頃と見込まれる。</p> <p>(てんたかく) 平年に比べ、草丈、茎数、葉数および葉色は並みとなっている。 葉数を揃えて比較すると、草丈、茎数、葉色は平年並みとなっている。 幼穂形成期は、平年より2日遅い7月1日となった。出穂期は、7月23日頃と見込まれる。 (富山県 7月3日付)</p>	同上																																														
石川	<p>(出穂期) ゆめみづほの出穂期は、加賀地域の平坦部で7月16～22日頃と近年並、能登地域(羽咋～中能登)は7月21日頃と近年に比べ1日程度早くなると見込まれる。また、能登地域(奥能登～珠洲)の能登ひかりの出穂期は、7月26～28日頃と近年より3日程度遅く、前年より3日程度遅くなると見込まれる。(石川県農林総合研究センター 6月29日付)</p>	同上																																														
福井	<p>・5月2日植えのハナエチゼンでは6月27日(平年並み)に幼穂形成期を迎えた。 (水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 6月28日付)</p>	同上																																														
長野	<p><農業試験場(須坂市八重森:標高348m)における状況> ・「あきたこまち」、「コシヒカリ」ともに草丈がやや短いが、茎数は平年並に近づき、生育は回復傾向にある。 (長野県農業試験場 7月3日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 6月23日～7月22日】 関東甲信地方の向こう1か月の気温は高い見込み。 降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【高温に関する異常天候早期警戒情報】 関東甲信地方では、7月10日頃からの1週間は、 気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれる。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>・ヒメトビウンカ(縞葉枯病)の発生が多い予想。 (農林水産省 6月13日付)</p>																																														
滋賀	<p>・作況調査では、草丈はかなり短く、茎数はかなり少ないが、県内ほ場では、全般に概ね平年並の生育となっている。 ただし、移植日やほ場条件により生育の差が大きい。 ・5月上旬移植の「みずかみ」では、6月26日頃に幼穂形成期を迎えている。 ・5月10日移植の「コシヒカリ」では、幼穂形成期は7月5日頃と予測される。 (滋賀県農業技術振興センター 6月28日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 6月23日～7月22日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は年並か少ない見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【高温に関する異常天候早期警戒情報】 近畿地方では、7月10日頃からの1週間は、 気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれる。 (気象庁大阪管区気象台)</p>																																														

生育状況等	
兵庫	<p>(全県共通) 葉齢の進展は平年並み。草丈は平年並み。茎数は少ない。 (東北) 葉齢の進展は平年よりやや遅く、草丈は短い。茎数は平年より多い。 (生育) (兵庫県 7月2日付)</p>
岡山	<p>【向こう1か月の天候の見通し 6月23日～7月22日】 中国地方の向こう1か月の平均した気温は平年並か高い見込み。 降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 中国地方の向こう3か月の平均した気温は高い見込み。 降水量は平年並か少ない見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【高温に関する異常天候早期警戒情報】 中国地方では、7月10日頃からの1週間は、 気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれる。 (気象庁広島地方気象台)</p>
広島	同上
愛媛	<p>【向こう1か月の天候の見通し 6月23日～7月22日】 四国地方の向こう1か月の気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並、日照時間は平年並か多い見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 四国地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量は平年並か少ない見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【高温に関する異常天候早期警戒情報】 四国地方では、7月10日頃からの1週間は、 気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれる。 (気象庁高松地方気象台)</p>
高知	同上
福岡	<p><5月30日現在> (4月5日播 南国そだち) 草丈、葉齢でみた生育進度はおおむね平年並、茎数はやや少なく推移している。 (4月5日播 コシヒカリ) 草丈、茎数、葉齢でみた生育進度も平年並で推移している。 (4月13日播 コシヒカリ) 草丈、葉齢でみた生育進度はほぼ平年並、茎数は少なく推移している。 (高知県農業技術センター 6月15日付)</p> <p>(生育) ・早期水稲(夢つくし、コシヒカリ) 生育は順調で有効茎は確保され、中干し時期となっている。 ・普通期水稲(夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど) 5月中旬～6月上旬植えは、田植え後、高温で経過したため、活着良く生育は順調。 (福岡県農林業総合試験場 6月15日現在)</p>
熊本	同上
宮崎	<p>【向こう1か月の天候の見通し 6月23日～7月22日】 九州南部地方の向こう1か月の気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か多い見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州南部地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量は平年並か少ない見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【高温に関する異常天候早期警戒情報】 九州南部地方では、7月11日頃からの1週間は、 気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれる。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p>
鹿児島	同上

注1：国及び地方自治体、出先機関、JA等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。
注2：更新箇所は赤字で示している。

参考・引用資料:

農作物の生育状況 7月1日現在(北海道 7月5日)、農作物生育状況 7月1日現在(北海道空知総合振興局 7月5日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道石狩振興局 7月5日)、農作物の生育状況 7月1日現在(北海道後志総合振興局 7月5日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道胆振総合振興局 7月5日)、農作物の生育状況 7月1日現在(北海道日高振興局 7月5日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道渡島総合振興局 7月5日)、農作物の生育状況 7月1日現在(北海道檜山振興局 7月5日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道上川総合振興局 7月5日)、農作物生育状況調査の概要 7月1日現在(北海道留萌振興局 7月5日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月5日)、
稲作生産情報第5号(青森県 7月4日)、
平成30年度水稲の生育状況(岩手県中央農業改良普及センター県域普及グループ 6月25日調査 速報)、
平成30年度水稲の生育状況について(7月2日現在)(宮城県農林水産部 7月3日)、
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 6月29日、6月22日)、
稲作だより第6号(やまがた攻めの米づくり日本一運動 6月29日付)、
酒田・飽海日本一米づくり情報 第7号(酒田農業技術普及課 7月3日)、
おいしい米づくり情報第9号(庄内総合支庁農業技術課 7月4日付)、
おきたま米づくり情報No.7(やまがた攻めの米づくり日本一運動置賜地域本部実践班 7月3日付)、
主要な農作物の生育情報 第3号(福島県農林水産部農業振興課 6月8日付)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月3日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 龍ヶ崎市 7月2日)、
平成30(2018)年度水稲生育診断予測事業速報No.3(栃木県農政部 6月27日)、
水稲の生育状況と当面の対策 第4報(千葉県農林水産部 6月27日)、
水稲の生育状況と今後の管理対策(第4号)(新潟県農林水産部 6月29日)、
H30岩船米生育速報(6月28日現在)(村上農業普及指導センター)
コンヒカリ生育情報(魚沼農業普及指導センター 6月28日)、平成30年度稲作生育速報No.3(佐渡農業普及指導センター 6月20日)、
TACS情報第6号(富山県農業技術課広域普及指導センター 7月3日)
平成30年度水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-6号)(石川県農林総合研究センター 6月28日調査)、
稲作情報No.9(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 6月28日)、
農業試験場水稲試験圃の生育状況(長野県農業試験場 7月2日)、平成30年度水稲生育診断情報No.2 滋賀県農業技術振興センター 6月28日)、
平成30年度兵庫農業気象技術情報第3号(7月情報)について(兵庫県農政環境部 7月2日)、
平成30年度における早期水稲の生育状況(6月11日時点)(高知県農業技術センター 6月15日)、
福岡県の主な農産物の生産状況(福岡県農林業総合試験場 6月15日現在)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(6月21日札幌管区気象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(6月21日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(6月21日気象庁)、
北陸地方こう1か月の天候の見通し(6月21日新潟地方気象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(6月21日大阪管区気象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(6月21日広島地方気象台)、
四国地方こう1か月の天候の見通し(6月21日高松地方気象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(6月21日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(6月21日鹿児島地方気象台)、

北海道地方こう3か月の天候の見通し(6月25日札幌管区気象台)、東北地方こう3か月の天候の見通し(6月25日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう3か月の天候の見通し(6月25日気象庁)、
北陸地方こう3か月の天候の見通し(6月25日新潟地方気象台)、近畿地方こう3か月の天候の見通し(6月25日大阪管区気象台)、中国地方こう3か月の天候の見通し(6月25日広島地方気象台)、
四国地方こう3か月の天候の見通し(6月25日高松地方気象台)、九州北部地方こう3か月の天候の見通し(6月25日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方こう3か月の天候の見通し(6月25日鹿児島地方気象台)、
異常天候早期警戒情報(7月5日気象庁)

「平成30年度病害虫発生予報第3号」の発表について(農林水産省 6月13日)